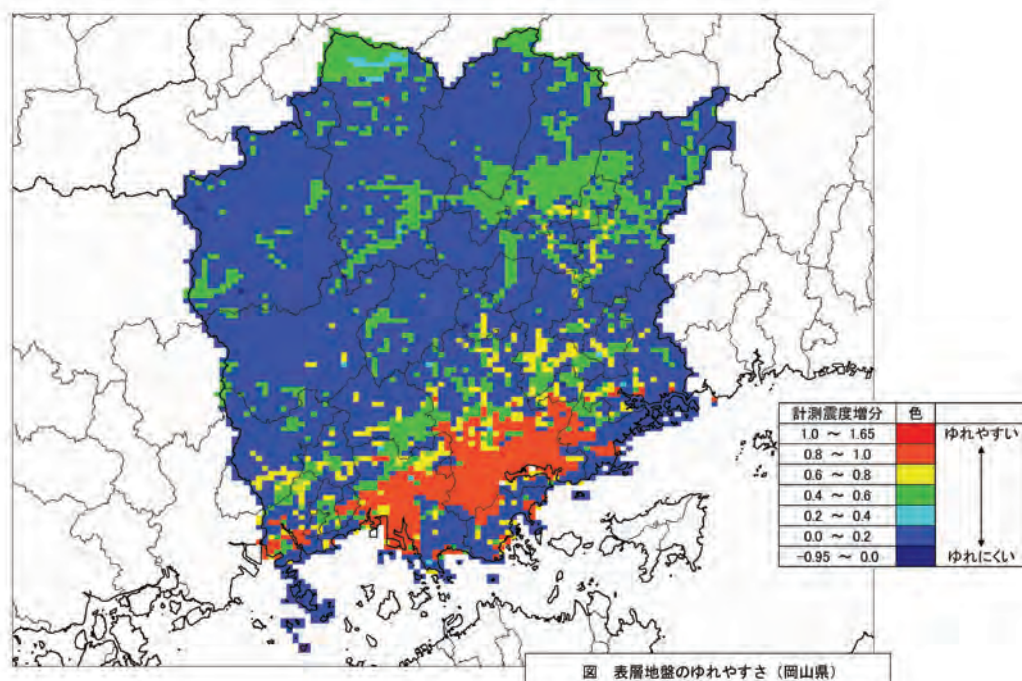


地震に備える

世界有数の地震国・日本。いつどこで発生してもおかしくない地震災害のリスクは避けて通ることはできません。津山市では大原断層地震、第2鳥取地震で大きな被害が想定されています。いざというときのために普段から備えておくことが大切です。

1. 表層地盤のゆれやすさマップ

地震による地表でのゆれの強さは、主に「地震の規模（マグニチュード）」、「震源からの距離」、「表層地盤」の3つによって異なります。また、同じ震度でも、大きな河川の周囲など地盤により、ゆれの大きくなる場所があります。



（内閣府中央防災会議HPより）

2. 普段からの備え

① 家具などの転倒落下防止

家具などの転倒落下防止をきちんとしておけば、地震による被害を大きく軽減することができます。

新潟県中越地震の負傷者の約4割は、家具類の転倒・落下によるものでした。万が一の備えはできていますか？室内を見渡し、できることから始めましょう。

室内の安全空間を確保

➡ 見直しポイント

- ◎ 寝室・幼児・高齢者のいる部屋にはできるだけ家具を置かない
- ◎ 部屋の出入口付近や廊下、階段などに家具類を置かない
- ◎ トイレや玄関など柱の多いところは比較的安全です

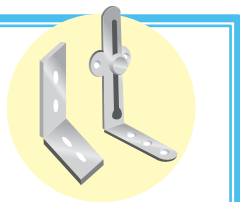
- ◎ じゅうたんや畳のうえに背の高い家具を置かない
- ◎ 重いものを下のほうに収納し、倒れにくくする

転倒防止器具の活用

家具を固定するタイプ

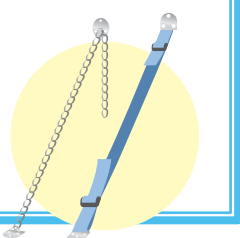
L字型金具

家具と壁をネジで固定するタイプ。壁の中の^{せん}せんが入っているところに設置。



ベルト式金具・チェーン式金具

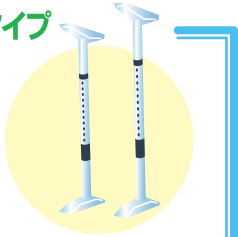
家具と壁をそれぞれネジで止めた金具を、ベルトや金属チェーンで結んだタイプ。



家具と壁を直接固定しないタイプ

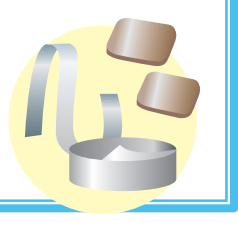
つっぱり棒

家具と天井の隙間に設定するタイプ。天井に家具を支えるだけの強度がないと危険。



ストッパー式器具

家具の前方下部に挟み、壁側に家具を傾斜させるタイプや家具の底面床面を粘着するタイプなど。



2 我が家の耐震化

1995年の阪神・淡路大震災のときには、犠牲者の実に約9割が家屋の倒壊によるものでした。

住宅の耐震化は、地震防災のもっとも重要な課題です。

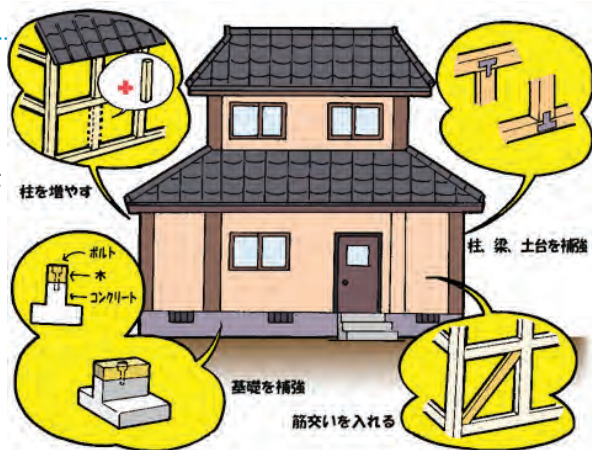
特に昭和56年以前の建物は耐震診断、耐震改修をしておく必要があります。

▶ 耐震補強のポイント

耐震診断を受けましょう

建築物の耐震診断・耐震改修(住宅に限る)については、市の補助金制度があります。

■ 問い合わせ先：建築住宅課 TEL. 32-2099



3 非常持ち出し品／非常備蓄品の準備

24ページのように、各家庭で「非常持ち出し品」と「非常備蓄品」を準備しておきましょう。

クイズ 地震発生! そのときあなたは?

Q.1 大きくゆれている最中でも、とにかくはやく火を消す?

Q.2 大きな地震のときは、余震があるから、気をつけなくてはいけない?

Q.3 大地震のあと、車を離れるときはキーをつけたままにする?

Q.4 ラジオばかりではなく、人のうわさを信じて行動する?

A.1 【こたえ＝×】 大きくゆれている最中は、熱せられた鍋などがひっくりかえることもあるので、かえって危険。まずは自分の身を守り、ゆれがおさまってから火を消そう。

A.2 【こたえ＝○】 阪神・淡路大震災のときは、地震発生後の約一ヶ月間で、173回もの有感余震が。余震にはかなり大きいものもあるため、くずれかけた家やブロック塀のそばなどでは注意が必要。

A.3 【こたえ＝○】 緊急時に車を移動させることがあるため、ドアロックもしないように。

A.4 【こたえ＝×】 人のうわさには、根拠のない「風評」が含まれていることも。ラジオや公共機関が発表する情報をたよりにしよう。

